

子宮けいがん予防ワクチンを受ける

みなさんへ



ワクチンを受けた後に 気になる症状が出たときは、 周りの大人に すぐに相談しましょう



「ききめ」と
「起こるかもしれない体の変化」の
両方をちゃんと知しましょう

気になる症状が出たときは？

すぐにお医者さんや周りの大人に相談しましょう

- ▼ こんな症状が出たら、すぐに接種をしたお医者さんや周りの大人に相談しましょう。
接種をしたお医者さん以外でみてもらう場合は、ワクチンを接種したことを伝えましょう。

- 注射の針を刺したときに強い痛みやしびれを感じる
- ワクチンを受けた後に、注射した部分以外のところで痛みや手足のしびれ・ふるえなど気になる症状や体の変化がある



- ▼ 他にもこんな症状が出ることがあります。

起こるかもしれない体の変化(リスク)

よく起こるもの	● 注射した部分の痛み、はれ、赤み、かゆみ、出血、不快感 ● 疲れた感じ、頭痛、腹痛、筋肉や関節の痛み、じんましん、めまい
まれに起こるもの	● 緊張や不安などをきっかけに気を失う



サーバリックス添付文書(第7版)
ガーダシル添付文書(第4版)

- ▼ 痛みやしびれ、動かしにくさ、不随意運動^{ふずい い}について

- ワクチンを接種した後に、広い範囲に広がる痛みや、手足の動かしにくさ、不随意運動^{ふずい い}(動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまうこと)などを中心とする多様な症状が起きたことが報告されています。これらの原因は現在調べているところですが、その報告頻度は5万接種に1回であり、ワクチンを接種した後や、けがの後などに原因不明の痛みが続いたことがある方はこれらの症状が起きる可能性が高いと考えられているため、接種については医師とよく相談してください。

子宮けいがん予防ワクチンは、
積極的におすすめすることを一時的にやめています

当日

病院・診療所の中で気をつけることは？

気を失うと、倒れてケガをすることがあります
ワクチンを受けた後30分ほどは座って
様子をみてください



ワクチンを受けた日に 気をつけることは？

はげしい運動はやめましょう



20歳

ワクチンさえ受ければ、 子宮けいがんにならない？

ワクチンを受けた人も、20歳を過ぎたら
2年に1回は必ず検診を受けてください

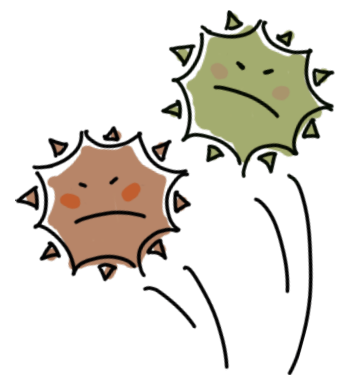
- ワクチンで感染を防げないウイルスが原因の子宮けいがんを予防するには、子宮けいがん検診を受けて、がんになる前に発見する必要があります。



どんなききめ？

子宮けいがんの原因となるウイルスが感染するのを防ぎます

- 子宮けいがんの原因は性交渉によって感染するヒトパピローマウイルス（HPV）です。そのため、ワクチンを受けてウイルスの感染を防げば、子宮けいがんも防ぐことができると考えられています。
- いま使われているワクチンは、子宮けいがんの50～70%の原因となる2つのタイプのウイルスが感染するのを防ぎます。



厚生労働省のホームページでは、子宮けいがん
予防ワクチンに関する情報をご案内しています

厚労省 子宮けいがん

検索

